

関係各位

愛知県農業総合試験場長
(公印省略)

病害虫発生予察情報について(送付)

このことについて、下記のとおり発表しましたので、参考にしてください。

記

令和3年度病害虫発生予報第8号(11月)
令和3年度病害虫発生予察注意報第11号
令和3年度病害虫発生予察特殊報第1号

担当 環境基盤研究部病害虫防除室
電話 0561-62-0085
内線 471
ファックス 0561-63-7820

令和3年度病害虫発生予報第8号(11月)

令和3年11月1日
愛知県

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
ウンシュウミカン	ミカンハダニ	やや少ない	県全域	10月下旬の発生量はやや少ない	—

・留意事項

10月下旬の巡回調査において、ウンシュウミカンにおける黒点病の発生量が多い状況です。枯れ枝やせん定した枝は次作の伝染源となるため、発生が多かったほ場では園外に持ち出すなど適切に処分しましょう。

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ハクサイ	軟腐病	平年並	県全域	10月下旬の発生量は平年並 11月の降水量はほぼ平年並	± ±
	べと病	やや多い	県全域	10月下旬の発生量はやや多い 11月の降水量はほぼ平年並	+
	アブラムシ類	少ない	県全域	10月下旬の発生量は少ない	-
	コナガ	やや多い	県全域	10月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い 11月の気温は平年並か高い	± + ±～+
キャベツ	黒腐病	少ない	県全域	10月下旬の発生量は少ない 11月の降水量はほぼ平年並	- ±
	菌核病	平年並	県全域	10月下旬の発生量は平年並 11月の降水量はほぼ平年並	± ±
	コナガ	平年並	県全域	10月下旬の発生量はやや少ない フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い 11月の気温は平年並か高い	- + ±～+
トマト (施設)	葉かび病	平年並	県全域	10月下旬の発生量は平年並 11月の日照時間は平年並か少ない	± ±～+
	黄化葉巻病	多い	県全域	10月下旬の発生量はやや多い 10月下旬のコナジラミ類の発生量は多い	+
	コナジラミ類	多い	県全域	10月下旬の発生量は多い 11月の気温は平年並か高い	+
ナス (施設)	うどんこ病	平年並	県全域	10月下旬の発生量は平年並	±
	ミナミキイロ アザミウマ	やや少ない	県全域	10月下旬の発生量は少ない 11月の気温は平年並か高い	- ±～+
キュウリ (施設)	うどんこ病	少ない	県全域	10月下旬の発生量は少ない	-
	べと病	平年並	県全域	10月下旬の発生量は平年並 11月の日照時間は平年並か少ない	± ±～+

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キュウリ (施設)	ミナミキイロ アザミウマ	やや多い	県全域	10月下旬の発生量はやや多い 11月の気温は平年並か高い	± ±～+
イチゴ (施設)	うどんこ病	平年並	県全域	10月下旬の発生量は平年並	±
	ハダニ類	平年並	県全域	10月下旬の発生量は平年並 11月の気温は平年並か高い	± ±～+
野菜共通	ハスモンヨトウ	やや多い	県全域	10月下旬の発生量はやや多い フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い	± +
	オオタバコガ	やや多い	県全域	10月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い	± +

・防除対策

[ハクサイ・べと病]

収穫前日数に注意してランマンフロアブルやプロポーズ顆粒水和剤などで防除しましょう。

[ハクサイ・コナガ]

収穫前日数に注意してブロフレアSCやディアナSCなどで防除しましょう。

[トマト（施設）・黄化葉巻病、コナジラミ類]

本日発表の「令和3年度病害虫発生予察注意報第11号」を参考にしてください。

[キュウリ（施設）・ミナミキイロアザミウマ]

ベネビアODやアグリメックなどで防除しましょう。

[野菜共通・ハスモンヨトウ]

10月下旬のキャベツほ場での巡回調査における発生量はやや多い状況です。フェロモントラップにおける誘殺数はやや多く、東三河地域の一部で誘殺数が急増しました。今後の発生に注意し、卵塊や、卵からふ化したばかりで集団になっている幼虫を見つけたら取り除きましょう。キャベツの薬剤については9月3日発表の「ハスモンヨトウ情報第2号」を参考にしてください。

一部のイチゴほ場で、ハスモンヨトウが確認されています。発生を確認したら速やかにプレオフロアブルなどで防除しましょう。

[野菜共通・オオタバコガ]

幼虫が中齢期以降になると、キャベツ等の結球部内に食入し、薬剤がかかりにくくなります。キャベツ、ハクサイでは若齢幼虫のうちにヨーバルフロアブルなどで防除しましょう。

・留意事項

虫媒伝染性ウイルス病のトマト黄化葉巻病（TYLCV）やトマト黄化病（ToCV）、キュウリ黄化えそ病（MYSV）が発生しているほ場では、発病株を抜き取り適切に処分するとともに、媒介虫（トマト黄化葉巻病はタバココナジラミ、トマト黄化病はコナジラミ類、キュウリ黄化えそ病はミナミキイロアザミウマ）の防除を徹底しましょう。

イチゴ炭疽病の発生量は平年並ですが、発病を確認したら発病株や隣接する株は速やかに抜き取り、ほ場外で適切に処分しましょう。育苗ほ場で発生があったほ場は、特に注意しましょう。イチゴのハダニ類は多発すると防除が難しくなるので、発生を確認したら、速やかに系統の異なる薬剤でローテーション防除しましょう。

作物

・留意事項

弥富市の水田において、ニカメイガによる坪枯れ被害を確認しています。本種は、収穫後の刈り株や畦畔雑草で越冬します。本種の越冬量を減らすため、刈り株をすき込む、畦畔雑草を除草するなど対策を行いましょ。詳細は10月1日発表の「水稻の秋冬期管理情報第1号（イネ白葉枯病、イネ縞葉枯病、ニカメイガ）」を参照してください。

10月下旬のダイズほ場での巡回調査における吸実性カメムシ類の発生量は平年並です。しかし、弥富市及び豊田市において、発生が多いほ場が確認されました。子実肥大中期以降の被害は奇形粒、変色粒を引き起こすため、収量、品質の低下につながります。また、成虫はほ場外に好適な食草があれば、子実肥大中期以降にはほ場外へ移動しますが、幼虫は移動せず、黄熟期まで加害を続けます。吸実性カメムシ類の発生が多いほ場では、収穫前日数に注意し、防除しましょう。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台10月28日発表）

〈予想される向こう1か月の天候〉

平年と比べ、晴れの日が少ないでしょう。

向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率50%です。2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。3～4週目は、平年並の確率40%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：20% 平年並：40% 高い：40%

〔降水量〕 少ない：30% 平年並：30% 多い：40%

〔日照時間〕 少ない：40% 平年並：40% 多い：20%

「農薬使用者のみなさんへ」

- 飛散防止にこれまで以上に留意し、農薬の適正使用に努めましょう。
- 農薬使用前にはラベルの内容を確認しましょう。
- 農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも洗いもれがないようにしましょう。
- 農薬は、安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。
- 農薬の使用状況を帳簿に記載しましょう。
- 農薬の空容器は、ほ場などに放置せずに適切に処理しましょう。